



伝統芸能保存活動支援

丸山 芳典
(新風会)

質問 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、傳承を中断してしまう団体をなくすための見解は。

答弁 伝統芸能を担う各地域の保存会の活動が途絶えないように、継承活動の中心となる地域の人々の思いや力を結集する必要がある。加えて、市が側面から支援を行い、地域の財産を守り育てていくことが大変重要であると考えている。

質問 伝統芸能は、地域の独自性があり、宝であると考えられるが、本市の支援策は。

答弁 本市では、長い歴史と伝統の中で培われてきた地域特有の伝統芸能を損なうことのないよう、積極的に支援している。支援内容には、太鼓などの備品修繕費の補助や継承する際に用いる映像を記録する事業があり、各団体は、この支援を活用している。今後も、ホームページなどを通じて伝統芸能に関する情報を発信するとともに、将来にわたって伝統芸能が継承されるよう支援していく。



誰一人取り残さない子ども達の多様な学び

中村 たくみ
(公明党)

質問 中学生の通級指導教室の拡充と指導の充実は。

答弁 堤ヶ岡に中学生の通級指導教室が設置され、指導箇所が2カ所に増えた。中央教室では、通級指導の中核として、さまざまな研修などを実施しており、各教室でも指導教員のスキルアップを図る研修や在籍校との情報共有を行い、児童・生徒の実態に応じた、きめ細かな指導の充実にも努めるとともに、状況を注視したいと考えている。

質問 本市のフリースクールに通う児童への支援は。

答弁 適応指導教室を市内8カ所に設置し、ニーズに応じた不登校児童・生徒への支援に努めている。県では、いじめ対策・不登校支

援等総合推進事業を活用し、適応指導教室の機能強化に向けた補助制度を設けているが、フリースクールへの補助制度はなく、本市も同様の対応となっている。今後は、フリースクールに通う児童・生徒の支援についても研究したい。



小学6年生の授業風景

援等総合推進事業を活用し、適応指導教室の機能強化に向けた補助制度を設けているが、フリースクールへの補助制度はなく、本市も同様の対応となっている。今後は、フリースクールに通う児童・生徒の支援についても研究したい。



小・中学校における授業の現状

片貝 喜一郎
(新風会)

質問 小学6年生と中学3年生への授業の対応は。

答弁 学校の最終学年に当たるため、進路の選択やそのための準備を行う大切な時期と考えている。各学校では、確実に学習内容を終わらせるよう計画的に授業を進めている。また、受験を控えた中学3年生に対しては、進路説明会の実施や進路だよりの配布など、受験に関する情報提供を積極的に行



コロナ禍における児童・生徒の対応

堀口 順
(市民クラブ)

質問 内申点の評価基準は公正公平が求められるが、公表すべきと考えるが、本市の現状と内申点の在り方は。

答弁 高年齢者の社会参加や地域交流としても重要な協議体の活動は、メンバー同士だけでなく他の協議体との情報共有など、人と人との交流を基本としながらこれまでと同様に進めたい。収束までに生活様式の変化も考えられるため、社会に即した新しい情報収集や共有の方法も研究していく。



質問 内申点の評価基準は公正公平が求められるが、公表すべきと考えるが、本市の現状と内申点の在り方は。

答弁 各中学校では、評価検討委員会を設け、受験時の内申点や成績が公正かつ適正に評価されているか、細心の注意を払い確認している。また、市教育委員会でも、提出された成績一覧表の確認を行っている。

質問 コロナ禍における本年度後期の財政運営は。また、今後の財政面の対応は。

答弁 企業業績の悪化など



国民健康保険税の軽減

依田 好明
(日本共産党)

質問 コロナ禍で最も影響を受けている中小企業や子育て世帯の負担を軽減するため、国民健康保険基金を活用し、国民健康保険税を引き下げる考えは。

答弁 被保険者の収入減少や受診を控える動きがあり、県の算定内容を注視する必要がある。本市では、これまで被保険者の負担が増えないように基金を活用して現行税率を維持しており、令和3年度はこれまで以上の基金の活用が予想されるため、現状では国保税の引

き下げは難しいと考える。

質問 滞納者に対し生活再建を優先した対応は。また、差し押さえに当たり、最低生活費を保障する考えは。

答弁 滞納者自身が現在の生活状況を認識し、市もその実態を把握できるように収支状況等報告書を提出してもらい、滞納解消に向けて柔軟に対応している。また、差し押さえによって生活が困窮しないよう、今後も生活保障費を控除するなど、丁寧な対応を図っていく。

き下げは難しいと考える。

質問 滞納者に対し生活再建を優先した対応は。また、差し押さえに当たり、最低生活費を保障する考えは。

答弁 滞納者自身が現在の生活状況を認識し、市もその実態を把握できるように収支状況等報告書を提出してもらい、滞納解消に向けて柔軟に対応している。また、差し押さえによって生活が困窮しないよう、今後も生活保障費を控除するなど、丁寧な対応を図っていく。



新しい生活様式における公共施設の在り方と今後

高橋 美奈雄
(市民クラブ)

質問 地区公民館にWiFi設備を導入し、講座などをいつでも開催できるような環境を構築する考えは。

答弁 公民館のオンライン講座の開催は、市民に学びの機会をつくるため、大事な課題であると考えている。また、講座の配信についても、研究課題として取り組んでおり、新しい生活様式

の中で、学習機会を提供できるように検討したい。

質問 市内の児童・生徒の思い出づくりに、高崎芸術劇場を利用する考えは。

答弁 芸術劇場は、芸術性が高い演目の誘致と、にぎわいの創出の寄与を目的として、有名アーティストを招いたコンサートや世界レベルの舞台芸術など、広範

の中で、学習機会を提供できるように検討したい。

質問 市内の児童・生徒の思い出づくりに、高崎芸術劇場を利用する考えは。

答弁 芸術劇場は、芸術性が高い演目の誘致と、にぎわいの創出の寄与を目的として、有名アーティストを招いたコンサートや世界レベルの舞台芸術など、広範



配布した差別防止チラシ

囲からの来場が見込める事業に利用されている。そのため、日程は限られてしまいが、予定が合えば、市内の児童・生徒の思い出づく



コロナ感染者への偏見を防ぐ取り組み

逆瀬川 義久
(公明党)

質問 新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見を防ぐ、本市の取り組みは。

答弁 ホームページでの啓発をはじめ、人権侵害防止啓発チラシ「STOP! コロナ差別」を作成し、人権プラザ、公民館、幼稚園、小・中学校など178カ所に配布し、注意喚起を図った。各学校では、道徳を中心とした人権教育などを通じて、誹謗中傷の防止に取

りの場として利用することも可能である。今後も、市民に親しまれる劇場となるよう取り組んでいく。

質問 高浜クリーンセンターで土曜日ごみを受け入れる考えは。

答弁 ごみの質や量の変化など、一般廃棄物をめぐる状況の変化を踏まえるとともに、地域住民の意見も取り入れながら検討したい。また、他市の状況なども参考に、関係部署と費用対効果を含めて協議し、効果的かつ効果的な受け入れを研究していく。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、議場の議長席、演壇、発言席に飛沫防止パネルを設置しました。



通級指導教室

在籍する小・中学校で学習しながら、決められた時間に通って、人との関わり方や集団のルールなどの指導を受ける教室。小・中学生だけでなく、幼児も通うことができる。

適応指導教室

不登校になった小・中学生が、再び登校できるように手助けをする教室。